高松大学紀要，42．173～182

保育学科における授業研究の実施とその背景

松　原　勝　敏

Enforcement and the background of the open class in the Department of Early Children Care and Education

Katsutoshi Matsubara

Abstract

The purpose of this paper is to explain the background of the enforcement of an open classe started in the Department of Early Children Care and Education of Takamatsu Junior College. At the same time this paper aims at opening to the public as future study materials of the enforcement of the open class

The main contents of this paper are summarizing the background of the enforcement of an open classe, the purpose and the contents of an open classe, and the results obtained by open class enforcement. Moreover, the documents created in open class enforcement are appended.

key word：an open class, lesson research

はじめに

本稿は，高松短期大学保育学科において開始された授業研究について，その実施に至るまでの背景を記録として残すとともに，今後の研究資料として公開することを目的としている。

大学入学者の多様化によって，大学では旧来の授業方法のままでは学生の学習の成立を達成することが難しくなっている。しかしながら，大学の教員は，そうした状況に対応する教授法の獲得，学習支援のためのノウハウを身につける努力を怠ってきた。近年，教授法研究を行う大学は増加しつつあり，本学保育学科においても遅ればせながら，学生への教育責任を果たすための実践的研究を推進する決意をしたものである。

なお，本稿は，事業推進の責任者の立場から松原が執筆するが，本事業は，保育学科の全教員だけでなく，志を同じくする他学科及び大学に所属する教員，そして，支援して下さった事務職員全員による成果である。

１．研究授業の実施の背景

本学においては，学園の最大の受益者である学生のために，「学生のための大学づくり」を目指して改革に着手した。もちろん，大学改革の動きは数年前から本学においてもあったが，諸般の事情によって実効を伴うものとはなっていなかった。そこで，2002年，丸山重信事務局長の呼びかけによって学長補佐会が設置され，様々な議論の後に「春日の夜明け計画」（高松大学・高松短期大学再生のためのアクション・プログラム）がまとめられ，2002年11月14日の教授会における審議の後に主要部分が承認された。この計画は，「教職員一人一人がその職責を果たすことによって，仕事には厳しく，互いに高めあうことで磨かれる協働的人間関係を構築し，学生一人一人の心の満足度を可能な限り高める」ことを目標にし，「目標達成のための重点課題」の３つの柱の１つとして「(2)授業改善への飽くなき取り組み」を掲げた。

そして，取り組みの具体的な方策として，「2002年度内に決定し，2003年度より実施すべき事項」として，「１）説明責任を果たすことのできる授業実践」「２）授業公開及び研究授業の実施」「３）学生による適切な授業評価と結果の公開」「４）教員評価の構築」の４つの事項を実現することによって，授業改善の実現を目指していた。

しかしながら，これらの項目については，抵抗感を感じる教員が存在しただけでなく，計画の文言からイメージする内容が個々の教員によって異なっていることなどもあって，共通理解が難しい様相を呈し，2003年度からの実施は不可能であると思われた。

そこで，遅々として進まない議論を待っていてはそれだけ改革が遅れてしまい，それによって学生への利益の還元も難しくなってしまうことは避けたいとの思いから，保育学科では，独自に授業研究を率先して行うとともに，他学科の牽引力となることを目指した。そうして，「大学教育高度化推進特別経費　平成15年度　教育・学習方法等改善支援経費」を申請するに至ったわけである。

本事業の概要を記すと次の通りである。

(1) 課題名：「保育学科における教員の授業研究の実施」
(2) 目的：保育学科に所属する教員が，それぞれに授業を公開し，定期的に研究授業・授業研究会を行うことによって，個々の教員の授業能力を高める。そして，教育・学習方法の改善を実現する。
(3) 内容：大学は，個々の教員の独立性が高いが故に，教員相互の連携や協力関係が

乏しいことが頻繁に指摘される。また，高等学校以下の諸学校の教員のように，教育の目的・内容・方法に関する知識と技能の習得を可能とする制度化された教員養成課程が存在しないために，大学においては授業能力に欠ける教員が多数存在するとの指摘が頻繁になされている。ところで，保育学科においては，保育士資格と幼稚園教諭免許状を同時に取得するために，多種多様な学科目の履修が求められる。それ故に，保育学科においては，それぞれに教員が授業を公開することによって，多種多様な授業方法の見学や分析を行う必要性を大いに有している。そこで，保育学科に所属するすべての教員が授業を公開し，定期的に研究授業・授業研究会を行うことを通して，保育学科の教育力を高め，教育・学習方法の改善を図る。

(4) 計画：平成15年度においては，授業公開と授業研究会を実際に試行し，研究授業実施に必要な準備や授業を受けている学生に対する影響など，様々な角度から研究授業実施のための一般的問題点や本学独自の問題点の洗い出しを行う。その結果を踏まえて，平成16年度においては，定期的に授業研究会を行いながら，優れた授業実践の記録・保存，分析等を行い，よりすぐれた授業実践のための資料の蓄積を行う。

(5) 期待される成果等：授業を公開することによって，個々の教員は，必然的に自らの授業を自己分析し，よりよい授業実践のための工夫を強いられることとなる。それゆえ，他の教員の授業実践における独創的な創意工夫をより意識的に見学・分析し，自らの授業実践に取り入れるようになることが予想される。また，教員が相互に授業実践の分析を行うことを通して，他の教員の授業実践に対して自由に長所・短所を指摘しあえる雰囲気をつくることを通して，教員には，教授組織の一員としての意識が高まり，教員相互の連携・協力関係を構築することが可能となる。こうして，学生の学習意欲によりいっそう適切に応えることが可能となり，より密度の高い授業実践が可能となる。

計画の素案は松原がまとめ，学科会議での議論の後に私学共済に申請するために大学当局に提出し，大学当局によるヒアリングを経て事業の学内での申請・採択を見た。法人：四国高松学園及び大学当局には，学園を取りまく諸条件が悪化する状況の中で，経費の支出をともなう事業であるにもかかわらず，本事業の趣旨と保育学科の授業改善に対する願いを理解しての採択に，感謝する次第である。

２．研究授業実施までの経過

授業研究のための申請が法人に採択された後，研究授業の実施までにはしばらくの時間を要した。これは，本学において研究授業の経験がないこと，また，研究授業が研究授業を実施するための研究授業になるのではなく，日常の授業改善に資するものとなるために教員に加重な負担を課する結果にならないようにすることなど，事前に研究しなければならない点が多々あったからである。研究授業を既に行っている大学はたくさんあるけれども，その多くが，参加者の不足に悩まされている。本学では，継続的に授業研究に取り組むためにも，研究授業が有名無実となってしまうことだけは避けたかったのである。

そこで，少なくとも，保育学科の教員は毎回全員が参加するということを基本とするために，2003年11月13日の学科会議において研究授業実施に関する確認と合意形成を図った。学科会議では，研究授業の趣旨と背景を確認し，研究授業の具体的実施計画及び研究授業の実践を通して目指すものを確認した。

なお，ここで第１回目の研究授業の授業担当者は，本稿の執筆を担当している学科長の松原が担当することとした。これは，松原が特に優れた授業を行っているということではなく，研究授業の主唱者が率先して行わなければ後が続かないという判断による。

当日の学科会議にて確認された内容は，次の通りである。

２．実施の背景：

(1) 受益者である学生への教育サービスの向上

(2) 学生による授業アンケートの実施－評価を授業改善に活用する義務の発生

(3) 「春日の夜明け計画」の教授会における承認

「アクションプログラム(2)授業改善への飽くなき取り組み」

１）説明責任を果たすことのできる授業実践

２）授業公開及び研究授業の実施－詳細は教務委員会で検討

３）学生による適切な授業評価と結果の公開

４）教員評価の構築－不的格教員に対する指導・勧告・解雇

(4) 本学におけるＦＤの実施－授業改善からの取り組み開始（現在準備段階）

３．実施計画

(1) 実施回数：２回の研究授業の実施　松原　他１名

(2) 実施日時：12月及び１月に各１回

・正規の授業時間帯における実施

・木曜日２校時，金曜日１・３校時その他への振り替え－学生及び教員の負担の問題

(3) 研究授業の実施：

① 研究授業実施の予告（10日前までに）

② 研究授業の実施

③ 授業検討会の実施（当日５校時）

(4) 研究授業実施の方針

① 研究授業実施の予告（学外への広報？）

〇他学科教員への授業参観の勧誘

〇他学科教員については，参加申込を募るが，授業検討会への参加を強制しない。

② 研究授業の実施

〇授業者の準備

・通常どおりの授業の実施を求めるが，授業者の創意工夫・努力を妨げない。

・授業のカリキュラム及びシラバス上の位置づけを明確にするための資料を用意（別紙資料：「『教師論』第３講の位置づけ」「教師論　指導計画」「教師論　板書計画」10月21日「課程認定大学実地視察」資料）

〇研究授業実施

・参観者は，教室後方から授業を観察する。

・参観者は，授業の妨げにならない限りにおいて，学生の学習状況を確認できる。

・参観者は，「授業の参加記録」を作成する。

・授業は，ビデオで記録する。

③　授業検討会の実施

・授業者の説明後，記録に基づく自由討論による「リフレクション」

・よりよい研究授業のための改善点の指摘

・研究授業記録の作成（主として授業担当者）と本学紀要への掲載（実践報告）

４．研究授業の実践を通して目指すもの

(1) 教育共同体の形成

本学には教授法の専門家不在であることの事実の認識の維持

(2) 個々の教員の個性を重視した研究授業の実施

(3) 大学全体におけるＦＤ活動への発展

・客観的評価表の作成

・研究授業実施マニュアルの作成

・授業参観の「日常化」の防止－教育力向上の意識の維持

３．研究授業の実施

研究授業を実際に実施するに当たっては，先にも記したとおり，本学における研究授業実践の蓄積が無いことや研究授業に抵抗感を示す教員がいたことに加え，大学教員には，小・中・高等学校等のような養成課程が存在しないために，授業を見学する教員にとっても，授業のどこを見ていいのかわからないという声があったことに配慮して資料を準備した。当日配布した資料の１枚目は次々頁に掲げるとおりである。

若干付言すると，資料１及び２は，保育学科の研究授業について，そのねらいを他学科や併設の大学の教員に示して理解を求めるために用意した。

資料３から10が，高校以下の学校において研究授業が実施されるときに普通に用意される資料と考えていただければと思う。ただ，資料７から９については，京都大学での研究授業の実践で使用されているものを使わせていただいた。その意味では，本学保育学科の研究授業は「借り物の研究授業」という点を否めない。これらの資料については，その出典と共に次頁に記して京都大学に対する敬意の表明としたい。

さて，牛歩の歩ながらもようやく第１回目の研究授業が2003年12月15日に実施された。

当日は，保育学科に所属する教員はもちろんのこと，三浦和夫学長（当時）をはじめ，授業改善に意欲的な教員の参加を賜った。また，検討会にも複数の他学科の教員のご参加を賜り，学科を超えた授業改善の取り組みのための一歩を踏み出せたことと思う。今後は，このような取り組みを一過性のものにしてしまわないような継続的な取り組みを計画的に推進していきたい。

なお，研究授業の実施に当たっては，事務局企画部をはじめ大学全体のご支援をいただいた。また，研究授業に協力して下さった学生の皆さんにも心から感謝したい。

参考文献

・和光大学授業研究会『語りあい見せあい大学授業』大月書店，1996年。
・京都大学高等教育教授システム開発センター『開かれた大学授業をめざして』玉川大学出版部，1997年。
・伊藤秀子・大塚雄作『ガイドブック大学授業の改善』有斐閣選書，1999年。
・京都大学高等教育教授システム開発センター『大学授業のフィールドワーク』玉川大学出版部，2001年。
・京都大学高等教育教授システム開発センター『大学授業の参加観察プロジェクト(1)－大学授業の参加観察からＦＤへ－』京都大学高等教育叢書11，2001年。

＊本事業は，大学教育高度化推進特別経費　平成15年度　教育・学習方法等改善支援経費「保育学科における教員の授業研究の実施」によるプロジェクトである。

2003.12.15.（月）

保育学科　研究授業（公開）

○研究授業
日　　時：2003.12.15.　４校時　14：40～16：10
場　　所：A31号教室
授業科目：保育原理ＩＢ（担当：松原勝敏）

○検 討 会
日　　時：2003.12.15.　５校時　16：20～17：50
場　　所：保育演習室（A館４Ｆ）
多数のご参加をいただける場合には，場所を変更致します。

〈 資　　料 〉

１．大学教育高度化推進特別経費申請書コピー
２．「研究授業の実施について」（保育学科学科会議資料　2003.11.13.）
３．保育原理ＩＢ　シラバスのコピー
４．「保育原理ＩＢ」第９講の位置づけ
５．「保育原理ＩＢ」第９講の授業展開の考え方
６．「保育原理ＩＢ」第９講の授業計画
７．授業の参加記録用紙
８．授業観察の視点
９．授業観察による気づき記録用紙
　授業観察の視点に関連してお感じになったことを，観点の欄に１－(2)などと項目番号を記してコメントを書いて下さい。
10．研究授業改善のための提案記入用紙
　なんでもけっこうですから忌憚のないご意見をお願い致します。

＊記入に当たっては，点数化につながるような評価方法ではなく記入方式にしました。これは，研究授業が教員を採点するために行われるのではなく授業改善の具体的提案につながることを意図したからです。
　また，試行ですので，全ての項目にわたって記入しなければならないという義務感をおもちになることなく，気軽に気づいた所だけを記していって下さい。そして，本学にふさわしい研究授業の在り方をみんなで追求して教育力の向上につなげたいと思います。

＊記録用紙はご提出をお願いします。研究授業改善の資料として活用させていただきたく存じます。なお，後日，ご返却いたします。

授業観察の視点

1．指導内容について
(1) 保育者養成カリキュラムに適切に位置づけられる内容であったか。
(2) 本時の目標設定は適切であったか。

2．授業過程の構成について
(1) 課題の明確な提示ができていたか。
・復習をふまえた課題の提示
・説明による課題の提示
・板書による課題の提示
・授業の目的の説明
(2) 授業の構造を示すことができていたか。
・板書による
・説明による
・図やＯＨＰによる
・プリントによる
(3) 系統性・順序性が適切であったか。
・系統性
・復習
(4) 形成的評価がなされていたか。
(5) 学生と教員のずれや飛躍がなかったか。

3．思考過程の支援と拡大
(1) 抽象と具体の橋渡しが適切であったか。
・説明による
・数式のイメージ化
・比喩
・身近な事例
・板書（と説明）
・模型による
・実物を使って
・日常の言葉とつなげて
・現実社会の課題とつなげて
(2) メディアの活用が有効であったか。
・プリント教材
・学生のレディネスの配慮
・板書
・ＯＨＰ
・ビデオ
・パワーポイント
・ＰＣ
・実物
・メディアの活用
・メディア利用で気をつけたいこと

4．身体性
(1) 学習における身体性がどうであったか。
(2) 教員の身体表現が適切であったか。

5．相互性の尊重
(1) 学生と教員との相互性が保たれていたか。
(2) 学生の反応をその場で教材化できていたか。
・学生の反応，つぶやき
・学生の疑問，質問
・学生の答案，作品

6．対象化
(1) これまでの「学び」の対象化
・教科書の相対化
・これまでの「学び」を対象化し学問に導く
(2) 自己と，自己の文化の対象化

7．問題意識の喚起
(1) 問題意識を喚起する（＝動機づけ）ことができていたか。
・専門的内容そのもので
・学問観を伝えることで
・興味ある学問上の課題を知らせる
・現代性，今日性に訴える
・「よさ」を知らせる
・既存の概念やイメージをゆさぶる
・人間を取り上げて課題を身近なものにする

8．学問研究への誘い
(1) 学び方，考え方を教えることができたか。
・重要な点あるいはポイント
・学術用語
・既習の想起
・根拠を挙げる
・トレーニング
(2) 学問の方法を教えることができたか。
・説明で
・他の研究者の研究とつなげる
・未開拓の研究課題の所在を伝える
・研究史を辿ることで
(3) 学問研究のおもしろさと厳しさを伝えることができたか。
・発想
・競争
・表現
・批判的態度

9．教員の自己開示
(1) 学生に対する教員の姿勢を伝えることができたか。
・学問の仲間として
・学生の視点を尊重した授業の進め方
・学生に対する尊敬
(2) 教員の自己開示ができたか。
・教員の体験を入れた授業内容
・学問的立場
(3) 研究者としての自己形成ができたか。

10．その他
(1) マネージメントは適切であったか。
・学生の授業運営への参加
(2) その他

文献：京都大学高等教育教授システム開発センター「大学授業の参加観察プロジェクト報告(1)－大学授業の参加観察からＦＤへ－」2001.３.

授 業 の 参 加 記 録

授業名：保育原理ＩＢ　　2003年12月15日　４校時　　授業者：松　原　勝　敏

対　象：保育学科１年生　受講学生数　　名（登録者数89名）　記録者：＿＿＿＿＿＿

時　間	授業の主な流れ 課題内容・教師の行動（発問，説明，指名，管理行動等）	学生の様子 顔上げ，発言，ノート，私語，課題外活動等	メモ 印象・感想

文献：京都大学高等教育教授システム開発センター「大学授業の参加観察プロジェクト報告(1)－大学授業の参加観察からＦＤへ－」2001．３．

用紙サイズはＡ４

授業観察による気づき　　記入者：＿＿＿＿＿＿　No.＿＿＿

観　点	コ　メ　ン　ト

用紙サイズはＡ４

研究授業改善の提案

研究授業実施日：2003年12月15日　　提案者：＿＿＿＿＿＿

用紙サイズはＡ４

高 松 大 学 紀 要

第　42　号

平成16年９月25日　印刷
平成16年９月28日　発行

編集発行　高　　松　　大　　学
高　松　短　期　大　学
〒761-0194　高松市春日町960番地
TEL（087）841－3255
FAX（087）841－3064

印　　刷　株式会社　美巧社
高松市多賀町１－８－10
TEL（087）833－5811